

編集後記：去る6月6日の朝から夕方まで、私の属する国立環境研究所の公開シンポジウムが東京国際フォーラムで開かれました。1500人収容の会場がほぼ満席となりました。地球環境問題などの科学と政治外交とが密接に結びついた問題に活発な発言を続けている米本昌平氏や環境ホルモン問題を一般人に啓発した「奪われし未来 (Our Stolen Future)」の著者の一人である米国の女性ジャーナリスト、ダイアン・ダマノスキー (Dianne Dumanoski) さんの人寄せ効果もあったので、一方、「都市大気汚染」、「酸性雨」、「環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質)」、「ダイオキシン」、「廃棄物」、「地球温暖化」、「オゾン層破壊」といったシンポジウムの話題のキーワードが、企業や一般の方々を引きつけたのではないかと思います。

昼休みの間のポスターセッションにも多くの方が集い、熱心な質疑応答がされていました。ポスターの側におられた中年の女性の方から、「研究者の方がやっておられるむづかしいことも、最終的には今回のシンポジウムのように私達にわかるように説明してくださなければ価値がありません。ぜひ展示ポスターを環境研のホームページに掲載してください。」といわれました。研究所の関係者が努力して、集まってくださる一般の方々にもわかりやすいように、シンポジウムの準備

をした甲斐があったのかな、と手応えを感じました。また、このようなシンポジウムで自分達の研究を紹介すること、この中年の女性のような方々に対面して説明することは、自分達の行っている研究を社会の広い視野の中であらためて位置付ける非常に良い機会になります。さらには、立花隆氏のような優秀なジャーナリストが出てきている昨今では、研究者は、自らの専門性を磨くとともに、その位置づけをきちんとするという本物の研究者としての力を、よりいっそう備えねばなりません。

このようなシンポジウムを裏方で支える仕事と編集という仕事はよく似ています。まず、企画が大切です。各演者(著者)の発表練習またはポスター案(原稿)を入念にチェックして、よりよいものに仕上げます。会の進行(原稿の校正、印刷物の体裁等)に気を使います。

「天気」編集委員会も、さまざまな分野の広がりを持ってきた会員の方々に興味深く、かつ、わかりやすい原稿を掲載するよう、著者とともに努力しておりますが、よりいっそう充実した誌面とするため、積極的に原稿をお寄せいただくとともに、さらに、読者としての声も編集事務局にお寄せいただければ幸いです。

(神沢 博)

「天気」編集委員会

編集委員長 新野 宏(理事)

編集委員 神沢 博(理事)・関口理郎(理事)

藤部文昭(理事)・石田純一

植田宏昭・小田切さやか

大淵 済・金田昌樹・川島正行

木下 仁・小出 寛・小司禎教

住 明正・関山 剛・田口晶彦

高橋 宙・高山 大・寺坂義幸

中村 尚・新村典子・板東恭子

別所康太郎・水野孝則・水野 量

山本 哲

地区編集委員 北海道 若原勝二・向川 均

東北 小柴 厚・早坂忠裕

関東 河原幹雄・竹内 仁

中部 永尾一平・井上長俊

関西 和田高秀・山中大学

九州 金崎 厚・中島健介

沖縄 仲大英

編集書記 遠藤和子